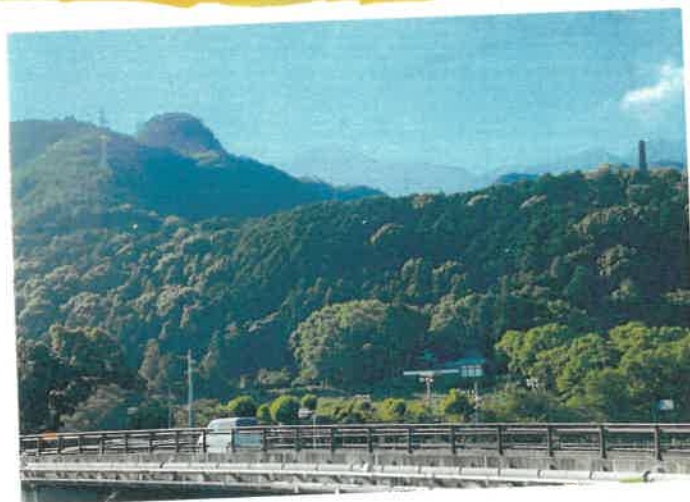




生子山城



角野中学校

一年 村上

虎太郎

目次

1. 調べたわけ

2. 調べたこと

3. 調べた方法

4. 調べた結果

- ・ 生子山城
- ・ 松木家の歴史
- ・ 天正の陣
- ・ 角野校区の松木家ゆかりの地

- ・ 生子山城足利世への見学
- ・ 佛國山瑞應寺への見学
- ・ 佛國山瑞應寺のお坊さんのインタビュー
- ・ 内宮神社への見学
- ・ ゆかりの地への見学

5. 分かったこと

6. 考察・感想

7. 参考資料

1. 調べたわけ

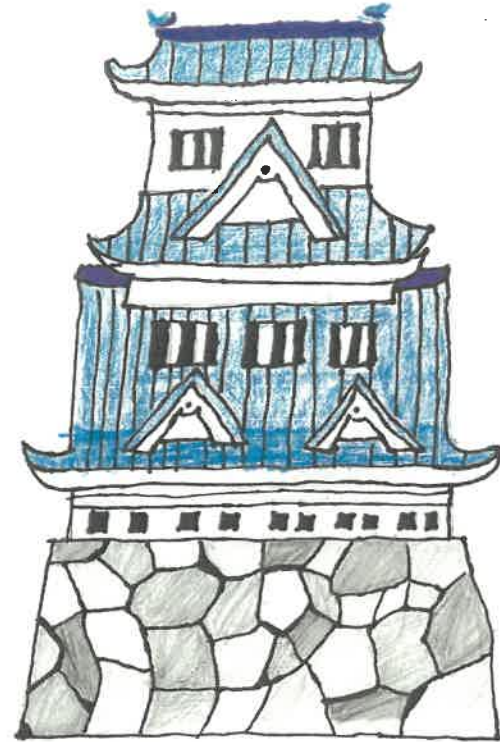
自分から才らしい)の么カ少期
に、父方の祖母から聞いた話が
あります。その話は、先祖が昔、
生子山にある生子山城に
住んでいた松木家の人だった
そうです。



今回、ふるさと学習をするに、
あたって、そのことを思い出し、生子山城や松木家につい
て調べてみようと思いました。

2. 調べたこと

- ・生子山城
- ・松木家の歴史
- ・天正の陣
- ・松木家ゆかりの地



3. 調べた方法

- 図書館の本で検索
- インターネットで検索
- 生子山城跡地への見学
- 佛國山瑞應寺への見学
- 佛國山瑞應寺のお坊さんのインタビュー
- 内宮神社への見学
- ゆかりの地への見学

4. 調べた結果

〈生子山城(しょうじやまじょう)〉

所在地 愛媛県新居浜市立川町
別 名 庄司山城
城郭構造 山城
天守構造 なし
高 さ 300m(比高240m)
築城期 南北朝時代
築城者 松木伊賀守通村又は、松木越前守景村
城主 松木氏・越智俊村(一条修理俊村)等
遺構 郭・堀切
廃城年 1585年(天正13年)
指定文化財 史跡等未指定



生子山城



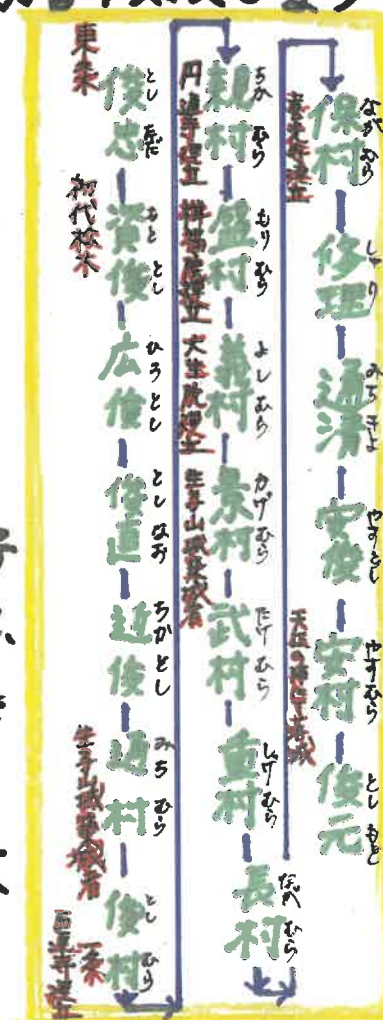
＜松木家の歴史＞

松木氏は河野氏の一族で越智氏である。孝靈天皇の王子伊豫王の子御子
子命から出てその遠孫玉興が越智郡大領となりその第五子澄が鳳早郡西河
野に居住して河野と称した。それより十余代経て為頼に至り別宮中太夫となり
別宮家を興した。その五世の孫俊忠である。

平安中共に今治日吉郷別宮に興り、三島大祝(大宮司)を勤めた一族で、金兼倉時代に新居浜東条付近に移住して高野山の寺領の「請込」の役を勤め、後にこの地方を領有して東条、一条、などと称した。東条権守俊忠は^{村上の一族}承久の乱に朝廷方に参加して活躍し、その子資俊は新居の松木に住んで初めて松木を氏とした。

南北朝時代に、資俊の孫通村は生子山に砦を構築し、この子
修理亮俊村は延元3年(1338)7月新居関において足利の軍と戦って敗れ、
その後正平年間(1346~1369)南朝の村上義弘とともに九州で活躍した
が再び帰新して生子山城に拠り歴代この地を領した。

天授5年(1379)5月細川頼之は河野通直を撃つべく4万の大軍を率いて伊予に攻め入り、通直は手兵7千を率いて防戦した。



日本史時代区分	
原始・縄文時代	縄文時代
古墳時代	古墳時代
奈良時代	奈良時代
平安時代	平安時代
鎌倉時代	鎌倉時代
室町時代	室町時代
安土桃山時代	安土桃山時代
江戸時代	江戸時代
明治時代	明治時代
大正時代	大正時代
昭和時代	昭和時代
平成時代	平成時代
令和時代	令和時代

生子山城主一条修理亮越智俊村を始め宇高氏も通直に味方し、俊村は700余騎をもって生子山城に防戦したが、ついに敗れて討死した。

その後室町末期足利幕府が衰運に傾いた頃、我が郷土には幾多の豪族が輩出して諸所に小城を築き、おのおの数か村を領有しその勢力の拡張に努めていた。角野の生子山には松本氏が生子山城を営んで角野の一部、川口・新田と立川を領有していた。

安土桃山時代、天正13年(1585)7月に豊臣秀吉が四国征伐に乗り出し小早川隆景の軍が伊予国に侵攻すると、城主・松本安村は金子城の金子元盛らと共に高尾城へ入り野々市原の合戦で討死した。生子山城には鈴木四郎太夫重保ら少数の兵しか残っており、ときを同じく落城した。



〈天正の陣〉～生子山城落城秘話～

天文七年(-五三八)松本三河守安村が生誕。父伊賀守安俊が四二歳で逝去し、安村が十八代目となった。

天正十三年(-五八五)七月、松本三河守安村は西条の高尾城へ入り戦地に向かった。その子新之丞は、生子山城の近くにあった中野城(中尾城)の城主であったが、父安村が戦場にでむくと体が弱かったため、家来の原伊賀守と生子山城を守っていた。原伊賀守は城が攻められる前に敵をよすてやろうと宮原(角野中学校)あたりまで兵を連れ、戦った。敵は内宮神社や瑞応寺まで焼き攻めてきた。苦戦のため土城へ戻ってきた原伊賀守は上から大きい石や丸太を落とし攻撃した。敵が水攻め作戦を行ったときは、山の上で馬の背中に白い米を流し、城にはまだまだ水があるというところを見せつけた。しかし、敵は風が山の方に吹いているのを見て、草に火をつけて火攻めにより落城した。七月十七日安村の奥方は城中にて自害し、殉死するもの男女六十二人余りだった。

安村は、野々市原合戦の後、八月六日遂に力尽きて宇摩郡河江村に討死した。時に四十八歳の生涯であった。

嫡子新之丞は種子川上流先の西谷治に歩いて15分ぐらいにある新吾屋敷に逃げのびた。嗣子俊元は二十二歳であったが刀を捨て農に帰る竹原に移った。その裔子系が足道に居住した。

喜光寺

第14代松本保村(1524)は喜光寺を建立しその法号は「喜光寺殿修理大夫保寿淨恵公大禅定門」である。廃寺になり喜光寺の「寺」が「地」に変わった。

西連寺

1300年(南北朝時代)この地を治めていた松木氏が城代が替わる毎に寺を建てた。第6代松木俊村が西連寺を建てた。俊村の法号は「西連寺殿修理大夫水月淨光大居士」という。廃寺となった寺名がそのまま土地名として残っているのがあるが、西連寺がどこに建っていたかは不明である。

木戸浦

生子山城を中心にして地域に生活があったといわれている。城の木戸浦と見ている。

宮原

この地は706年に建立された内宮ネ申社があり宮の原と呼ばれていたところからこの地名となった。神社は2町余り(辺長200m余り)の広さを持っていた。天正13年(1585)の戦いで焼失した後、山根に建立された。



土居の内

生子山城主に仕える家来たちの武家屋敷があったところといわれている。土居というのは、城の周囲の土の土垣、城壁などのことで集落の周囲に防御のためにめぐらしたもののことである。(山根温水プールの北側)

北内

生子山城の北には木戸が通って、城を守っていたがその内側にあるところから「木戸の内」から「北内」となった。

城主

この城主神社は有志が生子山城主松本三河の守安村を祭るために建てたといわれている。

角野新田

鎌倉時代(12世紀後半)に生子山城主であった松本資俊が、この辺りを開拓し新しく田を造ったところから新田とよぶようになったのであろう。

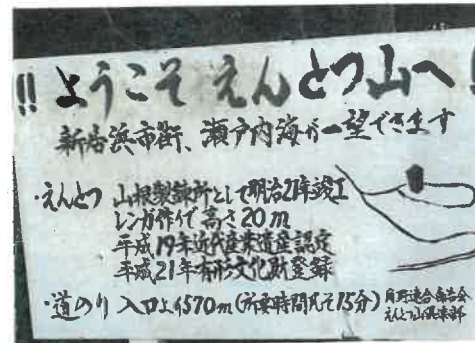
新吾屋敷

天正の陣で生子山城の嫡子が戦に逃れて落ち延び、そこに住居を構えたところから新吾屋敷といわれていた。今は別荘が数軒建っている。

＜生子山城跡地への見学＞

～えんかつ山を目指して～

いろいろ言周べてみて、実際に生子山城跡地に行ってみた
いと思った。とても暑かつたため、
AM 5:30にえんかつ山入口出発
息を切らし、汗たぐになりなが
ら歩き続け20分ほどで着いた、



新居浜市を一望。
自宅を発見!



めざせ
生子山城

<生子山城跡地への見学>

～えんかつ山から生子山城を目指して～



少し遠いけど頑張るぞ。



ちょっと進むと鳥居があった。



小石と木の根っこがあり油断せず下を見て進んだ。



かなり高い所まで来た。



案内表示に従って進んだ。



上の200mからとった写真と右の240mからとった写真ではえんかつ山の大きさが違う。



道幅が極端に狭い崖道、今にも落ちそうでハラハラした、

案内表示に従って行くと...

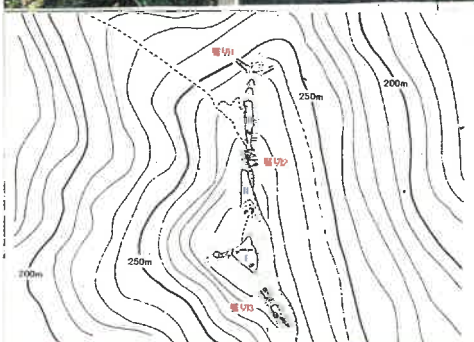


ほぼ道はなく岩を登るので足をふみ外しそうになった。





草が生い
茂っていて、
道が見えず
行く道は
はばんで
いた。



時間かけて **生子山城到着**



生子山城から見た新居浜市

下山時は土砂ですべりやすく
転倒に注意!!

丸太の椅子
の奥には頂
上に行くた
めの急な上
り坂があ
った。



山頂
標高300.3m
ロープなしでは
登れない、急
傾斜。途中ま
で試みたが
滑落の危険を
感じ断念した。



主郭は山頂にあり、南側に
「城主大明神」の石碑がある。

<佛國山瑞應寺への見学>



瑞應寺の前に大通山智勝寺があった。乾元元年(一三〇二)に初代城主資俊が亡くなり二代目広俊が両親の法名により大通山智勝寺と名づけて、正和五年(一三一六)に一寺を創建した。

資俊の法名：智勝院殿聖山本領大居士

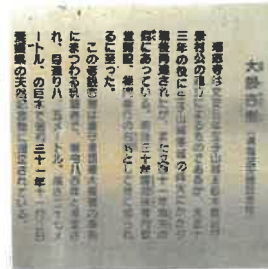
奥方の法名：大通比丘尼

その後文安五年(一四四八)に佛國山瑞應寺が創建され、創建したのは景村と武村が相図り一寺を建立した。景村と奥方の法名により佛國山瑞應寺と名づけられた。

景村の法名：佛國院殿柏翁天真大禅定門

奥方の法名：玉林院殿寒山瑞應大禅定尼

大銀杏木討(県文化財)



今から約八〇〇年前に河野通清が戦に勝った記念とこれからも栄えるようにと祈って銀杏の木を植えたそう。また、みんなが平和に楽しく暮らせるようにと原真いがこもっている。





初代
資俊

智勝院殿聖山本領大居士
乾元元年壬寅十月十日卒

十八代
安村

瑞應寺殿本山獄自性大居士
天正十三歳二月八日戰歿

十代
景村

佛國院殿柏公親大真大禪窟
康正元年正月十六日卒去

瑞應寺に松木家について教えてほしいと依頼しました。すると、金比羅山の参道の左側のところにある開基墓所に案内してくれました。開基墓所には三基の石碑があり、全ての石碑に殿と書いてあり、お坊さんが「殿はお金をはらってもつけられないもので町や寺に対して貢献した人にかつけれません。」と説明してくれました。

昔、祖母から松木家の家系図の系巻物を瑞應寺に預けたと聞いた。確認したところ、二〇年近くで住職が四代も変わっているため家系図の巻物は見あたらなかったそうだ。



< 内宮神社への見学 >



正式名称は「^{うちの}内
あやていはうこうたいじんぐう
宮天照皇大神宮」。

社伝によると、七
〇六年(慶雲三年)八
月、伊勢神宮の内宮
から、勧言請して創建。



内宮神社の後ろ
の大元宮に原伊賀
守や松木三河守に
祀られていた。



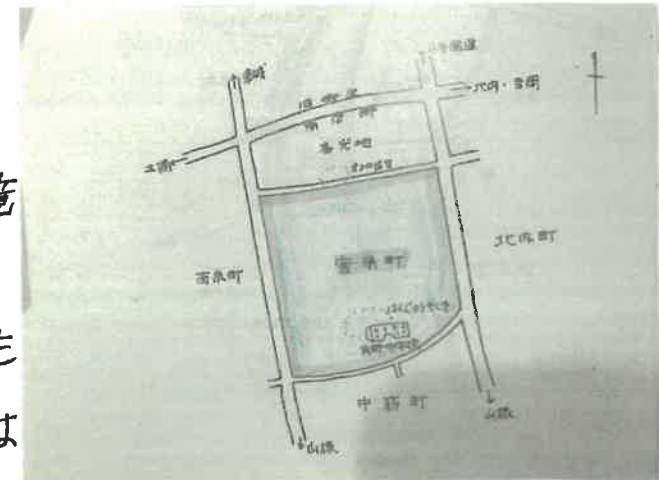
< 旧内宮神社跡地 >



内宮神社の古文書による
と「当ネ土は二町余リ(一辺約二
〇〇m余リ)の広さをもつ宮原の土也にあっ
た。」と記されており、今の宮原全体が境内
であったと思われる。



天正の陣で焼失した
後、民家が増え、現在は
山本良に建立された。



＜ゆかりの地への見学＞

●土成主神社●



角野新田にある土成主神社は、松木三河守をお祭りしている。



●新吾屋敷●



西種川から車で約20分山道に登ると新吾村に着いた。

●原伊賀守碑●

角野中学校の北門に行ったら石碑があった。石確認したら、提籠で原伊賀守碑はいくら探しても



見当たらなかった。→



はらいがのかみひ
原伊賀守碑
すみのちゅうがっこうきたもん
(角野中学校北門)

●魔戸の滝●

新吾が子を授けてもらおうと水を飲んだ後、子どもは授かたが、魔戸の滝にいた竜に食欠みこまれたという民話が残っている。



5. 分かったこと

生子山城は南北朝時代に松本伊賀守通村又は、松本越前守景村が築城したといわれている。山頂が約300mの山城で、天守構造がなく、主郭は頂上にあり遺構は郭や堀切がある。

5代目通村以降歴代この地を領した。

安土桃山時代、天正13年(1585)7月に豊臣秀吉が四国征伐に乗り出し、小早川隆景の軍に伊予国が侵攻された。18代松本三河守安村は野々市原合戦の後、力尽きて、8月6日討死した。生子山城は火攻めにより落城した。

鎌倉時代に初代松本資俊が角野新田を開拓、瑞應寺を景村と武村が創建した。



6. 考察・感想

生子山土成跡亦土也に行くときに、たまにこけ
そうになることがあります。登りきるまで1時間
20分ぐらいかかったけど、昔の人は重い着物
を着ているのによく大きな岩やたくさんの木の
根や小さな石ころや急な斜面などがある道を
登れたなと思いました。

歴史をさがのぼっていくと松木家と村上
家の先祖は一族者だったことがわかり、驚いた。

新吾村に行くとき、昔、祖母が買っていた土地
があり不思議な縁を感じました。

瑞應寺は、名前や開基墓所などの関わりが多く深いことを知った。

瑞應寺にある大銀杏樹の木封令は約800年と書かれており、約800年前は平安末期
ぐらいと思ったらかなり長生きしているなと思いました。



7. 参考資料

※文献

- ・ 生子山城落城秘話
- ・ 伊予瑞應寺史
- ・ 瑞應寺の今昔
- ・ 角野のあゆみ
- ・ 角野の地名といわれ
- ・ 角野の民言伝伝言説

※インターネット

- ・ 生子山城 <https://ja.wikipedia.org>
- ・ 伊予生子山城-城郭放浪記
<https://www.hb.pei.jp>
- ・ 生子山城 (愛媛県新居浜市角野新田)
<http://saigokunyama.jiro.blogspot.com>
- ・ 日本時代区分表 www.fukusige.info
- ・ 刀剣ワールド <https://www.touken-world.jp>
- ・ 内宮神社 <https://ja.wikipedia.org>